



恩師のような野球指導者を目指す

西当別中学校 3年

やまぐち だいご

山口 大互 さん



北海道選抜選手たちとの記念写真(台湾にて)

昨年11月に台湾で開催された軟式野球アンダー15アジア選手権大会に、北海道代表選抜選手として出場、見事準優勝を果たした山口大互さんにお話を伺いました。

足の速さを生かして

5歳のころから父親とキャッチボールをしていて野球に興味を持ちました。小学3年からは地元の太美ウォーリーズに入団しました。兄も野球をしていたので、兄に負けたくないという気持ちで練習に励みました。練習を重ねていくことでバッティング技術はもちろんですが、守備も少しずつ自分のイメージしたとおりに体を動かしているようになりました。自分の武器はスピードで、足の速さを生かして盗塁をすることもあります。簡単に成功するとはかぎりません。そこで試合の時に心がけていることがあります。まずは試合中、相手ピッチャーをよく観察します。癖をつか

んで、タイミングを合わせて盗塁するよう心がけています。

ライバルがたくさん

今回出場したアジア選手権大会には日本から3チーム、台湾から5チームが出場しました。北海道代表選抜選手として、全試合にショートで出場しました。選抜チームは道内各地から選ばれた選手ばかりで、野球のレベルも高く仲間でありながらポジション争いの良きライバルでもありました。試合はリーグ戦で全6試合が行われ、順調に勝ち進み決勝では同じ日本代表の九州選抜チームとの戦いとなり、惜しくも2対1で負けてしまいました。普段、一緒にプレーできない仲間と共に過ごせたことが何よりも刺激となり経験となりました。また、台湾チームとの試合で感じたことは日本野球のレベルが全体的に高いということです。今後、この経験を生かしながら頑張っていきたいと思っています。

尊敬する監督

中学の野球部で指導してくれた長谷川監督(西当別中学校教諭)を尊敬しています。野球の指導はもちろん、野球道具やあいさつを大切にすることや、物事に取り組む姿勢も教わり監督との出会いがなければ、いまの自分はなかったと思います。将来は野球の指導者となり、同じ立場で長谷川監督と対戦したいという夢を持っています。その夢を実現させるためにも、いまはトレーニングを続け、高校でもレギュラーを獲得できるように頑張りたいと思います。

(1月7日取材)

